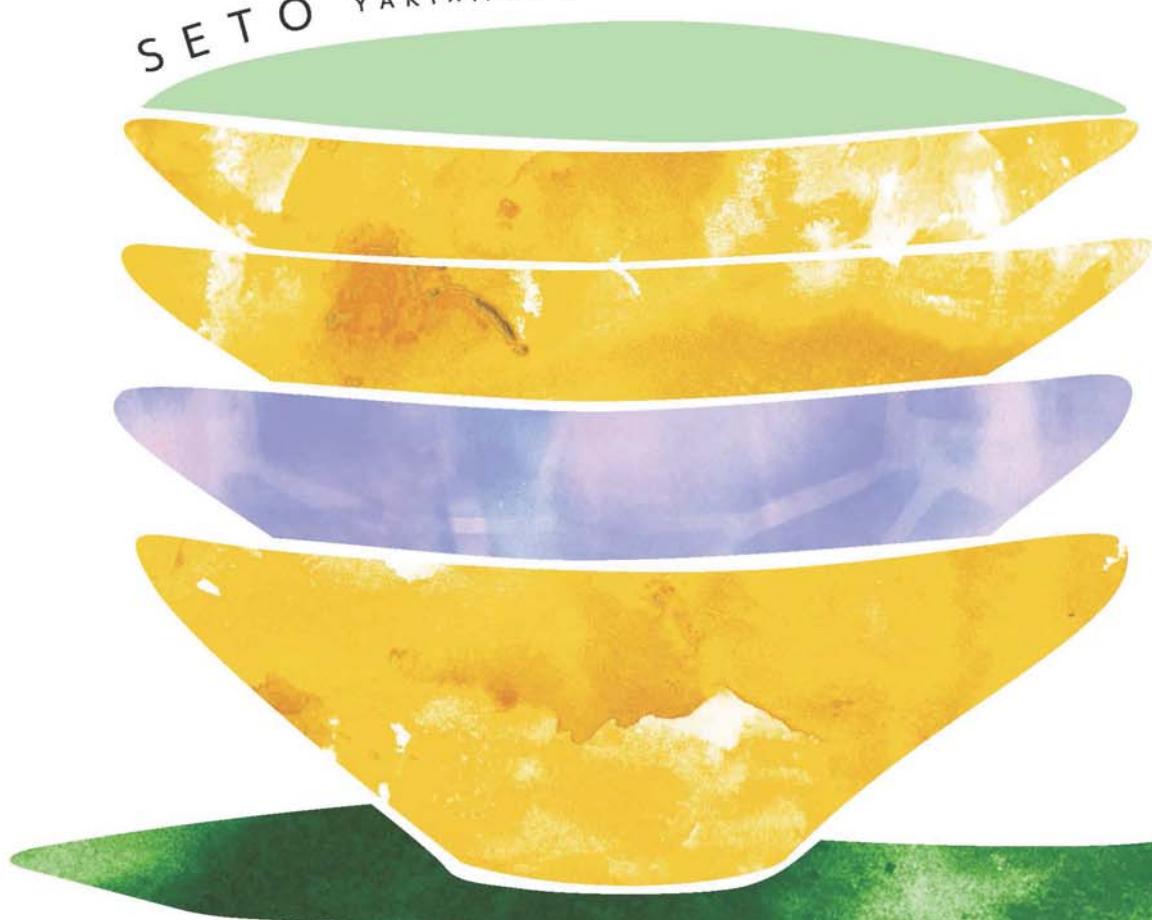


セトリエ

瀬戸からはじまるやきもの新生活。

SETO YAKI×MONO



セトリエ 第三号

発行 / 濑戸焼振興協会 〒489-8701 愛知県瀬戸市追分町 64-1 TEL : 0561-88-2651
E-mail:kogyoshinko@city.seto.lg.jp Web:<http://www.setoyakishinkokyokai.jp>
企画・編集 / 日笠 真理・岩田 舞海 || 写真 / カメイヒロカタ || 童画 / studio05 || 印刷 / 鬼頭印刷株式会社

古典をモダンに、映し変えていく。
さざなみの「つるし柿」は、
だれの心にも浮かぶ、秋冬の風情。
その時代ごとのつくり手の気風が、

織部には身近なくらしの風物が
生き生きと躍達に描かれてきた。
草木や鳥居型の「まがき」と並び、
さまざまに描かれる「つるし柿」は

桃山時代の陶工たちの手で、
「意匠千変万化して実に立派」。

つるし柿

いつ頃から描かれてきたのだろう。

北大路魯山人の言葉を借りれば、

古里の原風景



welcome
to
SETO
YAKI: つくる
×
つかう: MONO

いにしえ 古の窯跡ロマン

日本六古窯のひとつ、瀬戸焼。瀬戸市内には多くの窯跡が現存し、多くの発掘調査が行われてきました。近年の調査で、瀬戸の窯業のはじまりは平安時代中期までさかのぼることが明らかになり、約千年前

10世紀後半の灰釉陶器を焼いた窯が市域南部で発見されています。

時代ごとにさまざまに変遷してきた、瀬戸のやきもの。その遺跡や出土品から、私たちは“千年陶都”に生きた人々のくらしをうかがい知ることができます。日用品としての器や茶陶など、当時の「つかい手」の姿やライフスタイル、陶工たち「つくり手」の丹精を尽くした仕事に想いを馳せてみるのも、歴史ある瀬戸焼ならではの楽しみ。まだまだ

あまた
数多のロマンが、瀬戸の土には眠っていることでしょう。



赤津盆地東側の丘陵内に発見された
<門前B窯跡>
窯内埴土中より出土した入子。
(瀬戸市提供)



加藤眞也さん



眞窯は、妻・美保子さん(右)と娘・眞雪さん(左)との親子3人で制作。

つくりやすいものは、つかいやよい。

瀬戸の磁祖・加藤民吉(かとうみきら)が十九世紀初めに九州地方で修業し、磁器の技術を持ち帰り、瀬戸染付焼の発展に大きく貢献した。その民吉を称える窯神神社の祭礼と併せ、毎年九月に開催される「せともの祭」。近年瀬戸染付焼を紹介する「青の広場」には、卓越した伝統技法の中に

絶妙のデザイン感覚と発想が生かされ、藍一色の中でも異彩を放つ存在。

「瀬戸染付焼は、国指定(平成九年)伝統的工芸品。江戸後期に始まった石膏型に泥漿(でいしよう)を流し込み成形する流し込み焼込みを見直し、素地食器はやはり使いやすい。飽きがこない。毎日繰り返し使ってもらえるものがいい。」つくりやすいものはつかいやよい。モットーに、つかいやよい手目線の器を妻と娘との三人でつくっています」。

瀬戸染付焼は、輪郭無しで素地に筆一本で繊細に描く「つけて」や、細かい線で描く「線描き」、太い筆を使って塗りつぶす「ダミ」などの緻密かつ多様な技法がある。

「カタログ中心の販売展開では、写真映えを重視して無駄な絵を付けすぎてしまいかが。」

瀬戸染付焼は、輪郭無しで素地に筆一本で繊細に描く「つけて」や、細かい線で描く「線描き」、太い筆を使って塗りつぶす「ダミ」などの緻密かつ多様な技法がある。

「カタログ中心の販売展開では、写真映えを重視して無駄な絵を付けすぎてしまいかが。」

自然薯焼酎
「瀬戸千年の土の恵」染付ボトル 720ml 箱入り
瀬戸オリジナルの焼酎として(瀬戸みやげ推奨品)にも認定。

染付窯屋 真窯(しんがま)
愛知県瀬戸市中品野町330
TEL: 0561-41-0721

株式会社飼利商店
店主・中村利弘さん
愛知県瀬戸市深川町14
TEL: 0561-82-2304
<http://www.tairai.co.jp/>

「瀬戸染付焼替絵カップ」染付窯屋 真窯(しんがま) 加藤眞也さん

自然薯焼酎「瀬戸千年の土の恵」 飼利商店 中村利弘さん



足らない味わい

藍のみで描く「多彩」。すつきりと潔い白さを湛えた素地に、藍一色の濃淡で繊細に描かれる花鳥風月は、まさに水墨画の世界。色鮮やかな有田焼・九谷焼の色絵(上絵)に對し、「瀬戸染付焼(せとそめつけやき)」では、白地の素地にコバルトを主とする呉須絵具のみで絵付けを施し、その上に釉薬をかけて焼成する。焼成時に窯内を高温のまま一定時間維持する「ねらし」を行い、釉薬を熟成させることで透光性と独特の潤いが生まれる。施釉の有無によっても繊細に表情を変える、染付。瀬戸の名産・自然薯(じねんじょ)仕込みの本格焼酎「瀬戸千年の土の恵」をみなみと注ぎ入れると、さらにまた鮮やかさを増す。この凍として豊かな味わいに、染付の深さを知る。

うつわ 力ナッペ

「豆皿・豆鉢」と聞くだけで、ワクワクするのはなぜだろう。

小さな物に惹かれる女子「ハロ」。

昔遊んだままひとの延長線上に、いまの暮らしをみていくよ。

形も色もさまざままで、

ちょこちよこ盛りが楽しい器たち。

小さなおかず、おつまみ、おやつをカナッペのように自由に合わせて。

揃いでもなくとも色や柄違いを遊べる、日本のうつわ文化っていいですね。

—— 器の案内人 日笠眞理



手のひらに、ちょいととのるほどのサイズが愛らしく、「豆皿」「お手塩（おてしょつ）」「小付（鉢）」。じつもは薬味やたれ・醤油・香の物など、脇役使いが多いのでは？ 集いの席には、器をカナッペに見立て、料理をひとつずつ盛り。「みんなが主役」のにぎやかな宴が始まります。

上段右より
織部葉っぱ小皿：小春花窯
練上マーブル小鉢：更紗窯
緑彩三角丼：宝山窯
粉引花彫角小皿：立日窯 菊陶園

下段右より
御深井平盃：立日窯 菊陶園
二色十草小皿：小春花窯
黒織部豆皿：鮎津窯
織部楽十草小皿：春日窯 麦仙



瀬戸のおいしい仲間とピクニック

器をつかう楽しさは、そのまま「おいしい楽しみ」とつながるもの。瀬戸ではここ数年、ナチュラルな志向にこだわった「NEW瀬戸テイスト」が注目を集めています。それぞれにこだわりを持つた手づくりの味を和やかに寄せあい、活かしあって、『瀬戸発』のオーガニックライフを発信するつくり手たち。そんな仲間と、「ピクニック茶会」をコーディネートしてみました。

こんがりもつちもちのベーグル。朝採れ野菜にホクホクの根菜、豆・雑穀を使ったディップやシチューを添えて。デザートには、瀬戸の手づくり豆腐でヘルシーに仕上げたケーキや焼菓子を。びつたり重ねられる器なら、バスケットに手持ちでもかさばらないのがうれしい。

【ringo@sweets factory one】笠原ハルさんは、瀬戸のつくり手さんたちによるココロとカラダにやさしい「はんやおやつ、手作り雑貨を集めた『一瀬戸人-seto bito marche』を二〇一一年より開催。【Ubuntu】河合陽子さん、【土環(とわ)自然農園】丹羽真一郎さんも出店参加し、交流を重ねてきた。また、堀田麻衣子さん主宰【庭禾】の料理教室に河合さんが参加するなど、食への考え方や生き方に共感する仲間として、自然につながっていくたとか。

「ベーグルを焼いて友人に配っていたところ」ココミで広がり、名鉄瀬戸線・尾張瀬戸駅近くに出店。体や環境に負担をかけない材料を選んで使い、毎日ひとつひとつ丁寧に思いを込めて焼き上げています」。(河合さん) 店頭に並ぶのは、常時約十種類。シンプルな味わいは、野菜料理にぴったり。

過剰な栄養や必要以上の手を加えない「自然農法」でつくられる【土環自然農園】のエネルギーッシュな野菜は、『食べる元気になる!』と、みんなのお墨付き。

(堀田さん)

瀬戸のニューエイジたちによつて、新たな食や器のコラボレーションがまだまだ元気に生まれそうです。



写真左より笠原さん、堀田さん、河合さん、丹羽さん





天然無垢材家具の木片や端材から、木と木を組み上げてつくられた木箱やコースターは、「一期一会」の風合い。



撮影協力
snedker スニッカ
(オーダーメイド家具工房)
愛知県瀬戸市共栄通5丁目51番地
電話・FAX: 0561-85-5043
<http://www.snedker.jp>

器を愛でる手の仕事

ひとつひとつ、かたちあるものを伝え継ぐ“心づかい”。
「お気に入りの器を大切に使いたい」という気持ちを、
和の工夫と手仕事をの中にみつけました。

「仕舞い」のこころ：茶器箱

「ちゃきばこ」
仕事合間にほっとひと息、「お茶でもいきたいな」という時。
友や知人がふと立ち寄ってくれ、「ちょっとお茶でもいかが」という時。
いい昼下がりや休日など、ダイニングから窓辺や縁側へ移動して。
そんな風に軽快に、ささっと手元で淹れられる。お茶飲みセットの用意があれば、どこでもたちまちゅつたりと、ティータイムを満喫できる。茶人が茶道具一式を

仕組んだ旅持ち用の箱のことを「茶箱」といいますが、外へ持ち出しが手軽さと楽しさを、わが家に持ち込んでみませんか。あなたの仕様の「お茶の器を仕舞う箱」。季節やお好みで、茶器やお菓子を衣替え。ガラス瓶の振出しに小菓子、木の茶匙も添えて：お気に入りの器を見せたり仕舞つたり、ままごとのような楽しさに、お客人も和んでくれるはず。



オトコのウツワ

梶田清宏さん（調理師／瀬戸市）
「新鮮！瀬戸色スイーツ」

第52回せと陶祖まつり第3回「My 織部ライフ！コンテスト」のグランプリに輝いた梶田さん。モダンなデザインの織部を彩るカラフルなベジキューブ料理で、女性審査員の視線を釘付けに！本職は、福祉施設にお勤めの調理のプロです。この日も自家製ティラミスを蕎麦猪口でご用意くださいました。「ヘルシーな家庭料理やスイーツを作るのが好きです。料理を彩る器も、陶芸家の叔父の作品やせともの祭で見つけた器を使って楽しんでいます。和の器に洋のものを盛り付け、モダンに使ったりします。料理にとっての器は、人と服のように、個性を表し魅力的にするんですね。」

写真下：3種類の野菜キューブと3種類のソースの組み合わせで9つの味が楽しめる、グランプリ作品【みんなのベジキューブ】



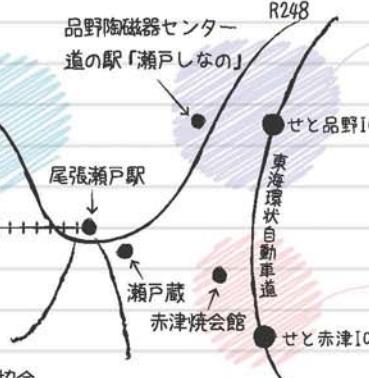
瀬戸焼ノート

「やきものの里」 赤津・品野・水野地区

陶都・瀬戸のやきもの文化を伝え継ぐ、赤津・品野・水野の三地区。それぞれ窯元や、陶芸家の工房などが多く点在しています。見学、陶芸体験などを行っているところもありますが、最近では春・秋に各地区で窯めぐりイベントを開催。つくり手と対話しながら直接購入出来たりスタンプラリーやお茶・お菓子の提供など各窯元の“おもてなし”が大人気。「つくり手」と「つかい手」が出会える楽しい機会となっています。

水野エリア

瀬戸市の北西部、水野川を挟み四方を丘陵地に囲まれた歴史ある地区。個性あふれる窯元が集まっているやきものの里。



窯めぐりのお問合せは…

瀬戸市まるっとミュージアム・観光協会
TEL: 0561-85-2730

各地区的窯めぐり情報が載った散策用マップもあります。



品野エリア

「やきもの小道」に沿って窯元が密集。江戸時代から続く「品野祇園祭」も有名。

赤津エリア

瀬戸市東部の山間地に位置するエリア。「赤津七釉」を特徴とする「赤津焼」は伝統的工芸品に指定。多数の窯元や陶芸家が集まっている。

セトミミ Column

毎年9月に開催される「せともの祭」は、昭和7年、磁祖 加藤民吉(たみきち)翁の遺徳を称え祀る窯神神社の祭礼の一環としてはじめました。まんが版『磁祖民吉物語』では、その偉業をわかりやすく紹介しています。



瀬戸の染付磁器を生んだ「せと者」たちの物語

『磁祖民吉物語』

瀬戸商工会議所ホームページ web版 <http://www.setocci.or.jp/tamikichi/>

SETOreet MAP

赤津エリア

窯の里「赤津」を歩こう



現役女子大生が結成！

陶都瀬戸の魅力を
若い女性視点で紹介

ラジオサンキューFM84.5セント
ラジオオフも聴いてみてね♪
毎月第2・4金曜日放送
<http://radio.845.fm/setoradio/>

せいざんがま
西山窯

カフェで憩い、新世代の赤津焼に触れる。
幕末から続く窯元で、山口正文さんと息子の真人さんによる一子相伝。6代目の真人さんは、桃山時代の伝統的手法を引き継ぎながら、新たな感性を自らの作品づくりに注ぐ。ギャラリーカフェも併設、赤津地区の窯めぐりで「ちょっとひと息」つきたい時の憩いのスポットに。



愛知県瀬戸市西森町137
TEL : 0561-82-4881
営業時間 : 10:00~17:00
カフェ : 土日祝日のみ営業
ギャラリー : 常時営業
②有



愛知県瀬戸市赤津町 22
TEL : 0561-82-6803
営業時間 : 10:00 ~ 17:00
定休日 : 不定休
陶芸体験有 ②有



あくつがま
飽津窯
みやちにくなり
宮地生成工房ギャラリー

手にすると語りかけてくる、楽しい器たち。赤津焼の系譜を端正に受け継ぐ織部や黄瀬戸があるかと思えば、カラフルで幻想的な絵柄、独特な形の土鍋やタジン鍋など“宮地ワールド”が広がる。「つくり手の顔がわかる作品を、楽しんで創りたい」と、自由な発想のやきものを追求。“飽津”は、現在の赤津町の旧称。



窯元併設のギャラリーや ショップは、業務の都合上不在の場合もあります。事前にお電話で確認または予約を。「セトリエ見ました」と一言どうぞ♪

瀬戸市東部にある赤津地区は、千年を超える歴史ある地区的ひとつとして知られ、「赤津七軒」を特徴とする赤津焼の窯元が数多く集まっています。毎年春・秋に開催される「赤津窯の里めぐり」など、歩き巡りの楽しいエリアです。



愛知県瀬戸市赤津町 95
TEL : 0561-82-4073
営業時間 : 9:00~18:00
(お昼休みあり)
定休日 : 不定期 ②有

たつひがま きくとうえん
立日窯 菊陶園

多彩！茶道具からディジュリドゥ(楽器)まで！？

エンゴロの壁と楽しいやきものアートが目印の窯元＆ギャラリー。開窯は寛保2年(1742年)、270年以上窯の火が絶えたことのない伝統ある窯元。現在も伝統工芸士・加藤正博さんと娘のあいさんにより、粉引、御深井、搔き落し等々多彩な作品を手がける。英語の対応も可。

はせもとがま ろくべえとうえん
長谷元窯 六兵衛陶苑

赤津ならではの風情と、窯元伝統の織部。築100年以上という赤津瓦の建物は瀬戸の伝統的な雰囲気が漂う。当代27代目、瀬戸では稀少な完全分業制を保持し、織部を中心に生粋の伝統工芸の技を伝え継ぐ。現代の名工にも選ばれ、「神の手」と呼ばれる山内砂川さん(黄綬褒章受賞)のろくろ技術も、間近で見学することができる。



愛知県瀬戸市赤津町 38
TEL : 0561-82-4585
営業時間 : 8:00 ~ 17:00
定休日 : 日祝日
絵付け体験有 ②有



愛知県瀬戸市窯元町 123
TEL : 0561-82-3256
営業時間 : 9:00~17:00
定休日 : 不定期
陶芸教室有 ②有



セトリ工さんと体験しよ！ 第三回 濑戸染付焼

セトリ工さんと一緒に、第三回は「瀬戸染付焼」。この工場では、初心者から熟練者まで幅広いテーマで絵付け体験ができます。呉須（ごす）と呼ばれる顔料で、花や鳥、昆虫など自然を写し描いていく染付。また、お皿に鉛筆で下書きした後、呉須を付けて筆で線描きしていきます。コツは呉須の濃淡の調整や筆使いで、花びらは中心から外へ、濃淡を付けるために筆先に水をつけ、筆を立てて生地に吸わせるように色をのせていきます。第一発勝負だけに、集中していると二時間はあつという間。焼き上がりの美しさに魅せられ、リビーターも多いそうです。

瀬戸市マルチメディア伝承工芸館－瀬戸染付研修所－

愛知県瀬戸市西郷町98番地 濑戸染付体験教室
※不定期で開催。開催日程は以下のHPでご確認ください。

- http://www.seto-cul.jp/multimed/
- ※箸置きへの染付体験（一個200円）は毎日できます。
- 定員：各回10名（一日20名）
- 申込方法：電話による先着順 ※定員になり次第締め切ります。
- 受付時間：午前10時～午後5時（毎週火曜日は休館です。）
- 申込先：0561-89-6001
- 参加費：一人500円

※焼成後の完成作品の郵送は、別途郵送料が必要。



国指定の伝統的工芸品「瀬戸染付焼」。



国指定の伝統的工芸品「瀬戸染付焼」。



国指定の伝統的工芸品「瀬戸染付焼」。



吉祥文様の網目（あみめ）を彫り込み、柔らかな光を演出する磁器のランプシェード。



瀬戸がわかる・瀬戸をかける

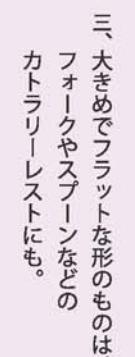
「彫付-HORITSUKE-」

全国のインテリア・雑貨セレクトショップやネットショッピングで注目を集め、「彫付-HORITSUKE-」のダイニングウェア。瀬戸・美濃地方の陶磁器において、従来染付や上絵付け等の技法で施された伝統模様を、原型の段階から彫り込むことで新たな表現を創り出した、瀬戸発のNEWブランドだ。手がけるのは、昭和三十年創業、陶磁器の型の製造から陶磁器製品の企画・製造・販売を行う株式会社エム・ヨシハシ。分業で成り立ってきた瀬戸の陶磁器生産の中でも、長年にわたり原型・型製造の分野で一翼を担ってきた。陶磁器づくりの原点であり、大量生産を支える存在でもある。型屋としての技術が消えゆく中、なんとか自社製品に生かして活路を拓きたいと考え、さまざまな試行錯誤から生まれたのが「彫付」でした」と、三代目の吉橋賢一さん。同年代で瀬戸出身のデザイナーとの出会いもあり、「魚偏漠字湯呑」等の斬新な作品も生まれた。精緻な模様や絵柄を原型に丹念に彫り込み、さらに仕上げや透明釉薬によって繊細な陰影を生みだす独特の表現世界は、型成形による「量産可能」な製品である。ながらも、まさに「手の仕事」を感じさせるもの。型+手彫り+デザインの相乗効果で、瀬戸の陶磁器産業にも新しい時代の光を注ぎ込みつつある。

株式会社エム・エム・ヨシハシ 愛知県瀬戸市品野町4-22 http://horitsuke.com

-セトヤキ・ギフトで贈り愛-

瀬戸の多彩なやきものの中から、プロの目で選んだイチオシをご紹介。



一、その姿かたちのおもしろさや美しさ、やきものとしての風合いを、まずは愛でる。

「箸置き」「二段活用」



女性目線の小物づかい

セトリ工字引03.

この号でご紹介した記事中の地名や用語等をチク解説。

【セトリ工】

- ①瀬戸+アトリエ=瀬戸のまち全体がやきものの文化を生み出すアトリエという意味。
- ②瀬戸焼の魅力を紹介するフリーペーパー。つくり手とつかい手をゆるやかに結ぶ新しい世界を提案・発信。

【愛知県瀬戸市】



【粉引（こひき）】

有色の胎土などに白化粧土を掛けた後、透明釉をかけて焼成したもの。白い粉が吹き出したように見えることに由来する。

【御深井焼（おふけやき）】

名古屋城の「御深井丸」にあった尾張徳川家の御用窯で焼成されたやきもの。

【原型】

石膏や粘土で作られた製品と同じ形のもの。原型制作における瀬戸の高い技術は国内外で高い評価を受け、やきもののみならず他素材の製品化にも応用された。

- 三、大きめでフラットな形のものは、フォークやスプーンなどのカトラリーレストにも。
- 二、手持ちの箸や器とのバランス、季節感や歳時記にちなんだコーディネートで楽しむ。
- 一、その姿かたちのおもしろさや美しさ、やきものとしての風合いを、まずは愛でる。



窯元 溪泉
愛知県瀬戸市東横山町58
TEL: 0561-82-5701
9:00～17:00 陶芸教室有
定休日: 日月祝日 ④有
http://www.seto-keisen.jp